

貯 法：室温保存
使用期限：外箱に表示の使用期限内
に使用すること

日本薬局方

アスコルビン酸散

Ascorbic Acid Powder

ビタミンC散「フソー」- 50 mg
ビタミンC散「フソー」- 100 mg

	散50mg	散100mg
承認番号	(61AM)2215	(61AM)2216
薬価収載	1964年10月	1964年10月
販売開始	1964年10月	1964年10月
再評価結果	1977年 5月	

【組成・性状】※

1. 組成

ビタミンC散「フソー」-50mgは1g中アスコルビン酸50mgを含む散剤である。

添加物として乳糖水和物、バレイショデンプンを含有する。

ビタミンC散「フソー」-100mgは1g中アスコルビン酸100mgを含む散剤である。

添加物として乳糖水和物、バレイショデンプンを含有する。

2. 製剤の性状

ビタミンC散「フソー」-50mgは白色の散剤である。

ビタミンC散「フソー」-100mgは白色の散剤である。

【効能・効果】

◇ビタミンC欠乏症の予防及び治療（壊血病、メルレル・バロー病）

◇ビタミンCの需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患、妊産婦、授乳婦、はげしい肉体労働時など）

◇下記疾患のうち、ビタミンCの欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合：

- 毛細管出血（鼻出血、歯肉出血、血尿など）
- 薬物中毒
- 副腎皮質機能障害
- 骨折時の骨基質形成・骨癒合促進
- 肝斑・雀卵斑・炎症後の色素沈着
- 光線過敏性皮膚炎

上記の諸症のうちビタミンC欠乏症の予防及び治療、ビタミンCの需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給以外の効能・効果に対しては、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

【用法・用量】

アスコルビン酸として、通常成人1日50~2,000mgを1~数回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
消化器	悪心・嘔吐、下痢等

2. 臨床検査結果に及ぼす影響

(1)各種の尿糖検査で、尿糖の検出を妨害することがある。

(2)各種の尿検査（潜血、ビリルビン、亜硝酸塩）・便潜血反応検査で、偽陰性を呈することがある。

【薬効薬理】

◇コラーゲン形成促進作用

壊血病の病理所見は骨、歯牙及びその他の結合組織のコラーゲン合成能の低下によるものと考えられている^{1,2)}。

壊血病生成食飼育モルモットの皮膚再生を指標にアスコルビン酸の結合組織形成に及ぼす影響を調べた実験では、アスコルビン酸の投与により組織のヒドロキシプロリン産生増とともに非コラーゲン性プロリンの減少が認められ、創傷部のプロリン含有物質がコラーゲンに変換されていることを示唆する成績が得られている³⁾。

また、結合組織のコラーゲンと類似の組成から成る上皮基底膜の合成もアスコルビン酸依存性であり、壊血病の徴候のいくつかは基底膜の合成不全によることが示されている⁴⁾。

◇副腎防禦作用⁵⁾

ラットにエピネフリン注射によるストレスを負荷すると、好酸球の減少とともに組織学的には副腎の警告反応を示唆する像が得られるが、アスコルビン酸を前投与しておいた動物では有意の好酸球増加が認められ、また組織学的に副腎は正常で、副腎防禦作用を有することが示されている。

◇メラニン生成に及ぼす影響⁶⁾

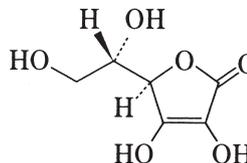
in vitro においてアスコルビン酸はドパキノン→ドパクロムの酸化に還元系として作用してドパクロムの生成を阻害する成績が得られており、モルモット及びウサギに大量投与した場合にも *in vitro* で認められたドパクロム生成阻害を起し得る量が皮膚へ到達することが認められている。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：アスコルビン酸（ビタミンC）

化学名：L-threo-hex-2-enono-1,4-lactone

構造式：



分子式：C₆H₈O₆

分子量：176.12

融 点：約190℃（分解）

性 状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、酸味がある。
水に溶けやすく、エタノール（95）にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

【取扱い上の注意】※※

◇安定性試験

50mg製剤及び100mg製剤の最終包装製品を用いた長期保存試験（25℃、相対湿度60%、3年間）の結果、試験項目はいずれも規格範囲内であった⁷⁾。

【包 装】

ビタミンC散「フソー」 - 50mg 500g

ビタミンC散「フソー」 - 100mg 500g

【主要文献及び文献請求先】**

- 1) Fullmer, H. M. et al., Ann. New York Acad. Sci., **92**, 286(1961)
- 2) 梶原 章, 最新医学, **17**, 1429(1962)
- 3) Gould, B. S. et al., J. Biol. Chem., **226**, 289(1957)
- 4) Priest, R. E., Nature, **225**, 744(1970)
- 5) Bacchus, H. et al., Science, **113**, 269(1951)
- 6) 竹内 勝 ほか, ビタミン, **28**, 501(1963)
- 7) 扶桑薬品工業株式会社 (安定性試験) 社内資料

【文献請求先】 主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター 学術部門
〒536-8523 大阪市城東区森之宮二丁目3番30号
TEL 06-6964-2763 FAX 06-6964-2706
(9:00~17:30/土日祝日を除く)

製 造 販 売 元



扶桑薬品工業株式会社

大阪市城東区森之宮二丁目3番11号

SG-010-010E